



**UNITED NATIONS  
UNIVERSITY**

2006年12月5日  
MR/J44/06

メディア用原稿  
非公式記録

国際連合大学 広報部  
〒150-8925  
東京渋谷区神宮前5-53-70

Tel.: 03-3499-2811  
Fax: 03-3499-2828  
E-mail: media@unu.edu  
Website: http://www.unu.edu/

2006年12月5日火曜日午後10時（日本時間）以降解禁。

## 最も裕福な2%が世界の富の半分を所有：国連大学研究発表

国連大学世界経済開発研究所（UNU-WIDER、ヘルシンキ）が12月5日に発表する研究によると、世界の家計資産の半分以上が、最も裕福な2%の成人人口により保有されていることが分かった。

この研究は、これまで行われた個人資産に関する研究のうち最も包括的なもので、2000年においては最も裕福な1%の人々が世界の資産の40%を保有している。その一方、総人口あたり低家計資産を有する約半分の貧しい層の人々が所有する資産をあわせても、世界の家計資産の1%にしかすぎないことが分かった。この研究は世界のすべての国、および個人資産のすべての主要構成要素（金融資産や負債、土地、建物、その他の有形財産を含む）を調査対象とした。

### UNU-WIDER の主な研究結果：

- ・ 2000年の世界の家計資産は約125兆ドル、すなわち世界の国内総生産（GDP）合計値の約3倍にあたる。
- ・ 購買力平価ドル（PPP\$：国ごとの生活費の格差を調整したもの）の世界平均は1人当たり2万6,000ドルである。だが資産のレベルは国によって大きな違いがあり、平均で見ても日本は1人当たり18万1,000ドル、米国は14万4,000ドルだが、インドネシアは1人当たり1,400ドル、インドは1人当たり1,000ドルで、これらは日米の1%にも満たない。
- ・ 世界の成人人口の6%を占める北米は、世界の家計資産の34%を保有している。次いでヨーロッパが世界の家計資産の30%、アジア太平洋地域の高所得国が24%を占めている。
- ・ 世界で最も裕福な10%の人々のうち、4分の1はアメリカ人、5分の1は日本人、12分の1がドイツ人である。世界で最も裕福な10%の人々の半数以上がこれら3カ国に住んでいる。
- ・ 日本とアメリカでは富の分布パターンが異なる。ゼロから1までの数値で富の不平等性を測るジニ係数（ゼロだと全員が平等）によると、日本は0.55、アメリカは0.80（世界全体はそれより高い0.89）である。
- ・ この研究では、国際的な資産の構成要素の違いが浮き彫りになった。発展途上国では不動産（特に土地や農業資産）が重要視される一方、豊かなアジア諸国では貯蓄が大きな特徴となっている。それに比べて、欧米諸国では株式やその他の証券類が目立っている。
- ・ いささか逆説的ではあるが、家庭の負債は貧困諸国のほうが相対的に少なく（これは主に、住宅ローンを利用したりその他の大きな買い物をしたりすることができないため）、高所得国でも純資産がマイナス（負債）で、世界の最貧困層にランクされている人が数多くいる。

本研究はメディア・プレビュー用としてオンラインにて公開（英文のみ）。

<http://www.wider.unu.edu/research/2006-2007/2006-2007-1/wider-wdhw-launch-5-12-2006/wider-wdhw-press-release-5-12-2006.htm> 一般向けにはロンドンとニューヨークの国連本部で12月5日に発表予定。取材申し込みについては、下記担当者までお問い合わせください。国連大学広報部の谷野直子（TEL：03-5467-1311；メール：[media@unu.edu](mailto:media@unu.edu)）

「家計資産の世界分布」

著者：ジェームズ・デイビス（ウェスタン・オンタリオ大学）、スザンナ・サンドストロム（UNU-WIDER）、アンソニー・ショロックス（UNU-WIDER ディレクター）、エドワード・ウォルフ（ニューヨーク大学）

MEDIA ADVISORY